

“未来の販売・展示会”を披露



ピンアパレルの22年秋冬展示会で最新テクノロジーを駆使したプレゼン（AR試着用サイネージ）

展示会で最も注目されたのは、AR試着用サイネージ。装置の前に立ち、自分の姿を映して、サンプルを

大型デジタルサイネージと、3D・CGで作ったアイテムを確認できるデジタルミラーサイネージを設置。来場者は画面をタッチし、操作した。カメラで撮影した動画を3D・CG化するボリュメトリック技術を活用した大型デジタルサイネージは、カタログを大画面の3D動画で見ることができ、ウェアのしわやゆとりもリアルに表現しているのが特徴だ。

展示会場にはサンプルを着せたマネキンを一体も置かず、サンプルを3D動画で確認できる

大型のデジタルサイネージと、3D・CGで作ったアイテムを確認できるデジタルミラーサイネージを設置。来場者は画面をタッチし、操作した。カメラで撮影した動画を3D・CG化するボリュメトリック技術を活用した大型デジタルサイネージは、カタログを大画面の3D動画で見ることができ、ウェアのしわやゆとりもリアルに表現しているのが特徴だ。

T S I

T S Iはゴルフブランド「ピンアパレル」の22年秋冬展示会で、AR（拡張現実）による試着体験が可能なデジタルサイネージ（電子看板）や、3D動画を鑑賞できるホログラムディスプレイなど、最新のデジタル技術を駆使したプレゼンテーションを試みた。AR試着用サイネージはEC機能も加えて22年12月までに直営店に導入し、販売支援ツールとして活用する。

（杉江潤平）

AR試着、3D動画、デジタルカタログ…

選ぶと、合ったサイズをパッチャル（画面）上で、試着したようになる。画面上のカメラマークをタップすれば、QRコードが現れ、それをスマートフォンなどで読み込むと画像データを入力し、じっくりと検討したり、他人とシェアしたりできる仕組みだ。今後は同じQRコードで、決済と自宅への配送手配もできるようになるという。T S Iは22年12月までに同サイネージを直営店7店に設置する。こうした展示会をした理由について、ピンアパレルセクションの田中幹セクション長は、「デジタル技術が進歩する一方で、展示会のやり方が変わらないうのが嫌だったから」と明かす。同ブランドでは契約プロや雑誌社への貸し出しをするため、サンプルを製作・展示したが、これらデジタル技術を使えば、「ブランドによってはサンプル数を最小限にでき、コストを大幅に削減できる」という。また、AR試着用サイネージは、店頭のない商品をバーチャルで試着できるため、「店舗在庫を減らし、省スペースで人件費もかけずに販売できる」のがメリットだ。